

# いま、教師に期待する

## 職業としての教師



教師は子どもを通して自らを問い、子どもによって自らを拓くことができる……

職業訓練大学校助教授

森 和夫

教師は子どもの教育にかかわってはじめて教師になる。学者が教育というものをどんなに熱愛し、希求していてもそれは教師とは言わない。教育対象としての子どもがそこにいなければ教師とは呼ばないからである。

教育現場に身を置く教師は限りない可能性の主人公でもある。教師は子どもを通して自らを問い、子どもによって自らを拓くことができる。教師の行う人間の探求は子ども自身の探求でもあるのだ。この両者のかかわりは、人間というもの、自然や科学や文化というものを探求するに絶妙のコンビネーションといえる。教師という職業にある者だけが体験することのできる素敵な世界だ。この「教師が教師になるための活動」は「職業としての教師の探求」と同質のものなのである。私は「職業としての教師」を考えるキーワードを次のように考える。その第一は子どもの変化をみつめる眼である。こ

どもの中にある芽生えと成長、転機を見逃さない眼である。優れた教師は繊細かつ大胆なスタンスから子どもを見据える。その第二は人間や自然、科学、文化の源流をのがさない眼である。それは教師がひとつひとつの授業で明らかにしてゆく「探求と感動のドラマ」に現れる。自らの感動は子どもの感動に広がる。その第三は地域と社会をつなぐグローバルスクールの眼である。人間が社会的な存在であることを知っている教師はいつもこのことを忘れない。教師は地域の可能性をも拓くことができる。

生涯学習が叫ばれる今日、教師に注ぐ市民の眼差しは熱い。

さがみはら教育 第九十六号

平成元年十一月六日発行

編集兼 相模原市教育研究所

発行人 所長 小野 友治

発行所 神奈川県相模原市鹿沼台

一〇一〇二〇

相模原市教育研究所

電話 〇四二七(五六)三四四三

印刷所

タイヨー印刷株式会社

相模原市上溝四一九一〇

電話 〇四二七(六二)二二五七